

《無断転載を禁ずる》

2020年度 群馬県立女子大学文学部美学美術史学科

一般選抜試験（前期）

出題意図

栗本高行『墨痕—書芸術におけるモダニズムの胎動』（森話社、2016年）を題材に、次のような出題を行いました。

問1及び問2

本学科に入学して学ぶために必要な漢字の読み書きができるかを問いました。

問3

具体的な漢字と抽象的造形がそれぞれ何であり、どうして相反するのか、本文に即して説明できるかを問いました。

問4

宇野雪村と白川静それぞれの漢字に対する美学的な見方の何が共通しているかを理解できているかを問いました。

問5

書の芸術性について、本文筆者の説明に即してまとめた上で、自身の考えが論述されているか、それが論理的に記述されているか、主張に一貫性があるか、文章表現および表記が適切かを問いました。